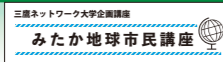


# ●2022年度● コロナ禍の中、対面&オンラインにより 会員団体との協働で多彩な講座を開催

## みたか地球市民講座



「みたか地球市民講座」とは、(1)「不安な時代」を生き抜くための学び、(2)地域から世界を考える、(3)地域の“大学”としての新たな取り組みを行う講座です。2022年度は、5件の連続講座と1件の単発講座を開催しました。

「数字はつくられた—統計不信問題の歴史的起源」(全1回)  
佐藤 正広 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院・特任教授)

「明治維新における『公論』と『暴力』—日本民主主義の源流を探る」(1)(2) (秋と冬に各3回)  
三谷 博 (東京大学・名誉教授)

「『消費者』とは誰か—日本現代史から考える」【オンライン】(全5回)  
満園 勇 (北海道大学 大学院経済学研究院・准教授)

「証言が描く、独ソ戦・チェルノブイリ原発事故・ソ連崩壊—アレクシエーヴィチ文学を手がかりに」(全5回)  
石丸 敦子 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院・特別研究員)

「英国とオックスフォード大学から学ぶリーダーシップ」(全5回)  
中谷 安男 (法政大学経済学部・教授)

## 東京学芸大学 連携企画講座

### 子ども支援学講座 実践編 (講座と実習)

毎年、東京学芸大学と連携し、開講している本講座。令和4年度は、令和5年度にかけて三鷹市内の子ども支援活動実践者と連携し、講義と実習を取り入れた「実践編」を開講しています。放課後子ども教室、地域未来塾、子ども食堂等での実習を通して、新たな形で子どもへの支援のあり方や、子どもとの関わり方、地域でのネットワークづくり等を学びます。

## 専門学校アジア・アフリカ語学院 寄付講座

### 語学体験講座

アジア・アフリカ地域の言葉の魅力を知る機会として、春と秋に語学体験講座を開講しました。同学院から、アラビア語、ウルドゥー語、インドネシア語、韓国語、タイ語の講師をお招きしました。各国・地域のことに触れながら、話したり書いたりすることに挑戦する入門クラスを主としました。

## 日本獣医生命科学大学 企画講座

### 動物の命と健康を守るには—女性研究者が語る動物福祉の現在 (全4回)

日本獣医生命科学大学の女性研究者が犬猫などのペット動物の健康と保護、家畜(産業動物)の健康、日本における動物保護の現況と課題等を解説しました。同大学が文科省の人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の対象となったことを受け、講師全員に女性研究者を起用しました。

## 国際基督教大学 寄付講座

### “数学のタベ”

数学は、新たな視点を加えながら現在も発展を続けています。特に近代以降の数学から数多くの興味深いトピックが生まれました。容易にはアクセスできず、知られていないものも多くあります。本講座では、そのような興味深いトピックの中から一つ選んで、数学の視点や発展の様子などを紹介しています。

## 東京女子大学 寄付講座

### “数学はこんなに面白い!” “数学カフェみたか”

小林一草名誉教授による講座で、「数学はこんなに面白い!」は2010年に、「数学カフェ」は2014年に開始し、いずれもおおむね毎月開講しています。数学に関心のあるシニア層のリピーターが多く、毎回キャンセル待ちが出るほどの人気講座です。

## 東京女子大学 企画講座

### 舞鶴引揚記念館とユネスコ世界記憶遺産—歴史を知り、学び、継承する場としての歴史博物館

黒沢文貴名誉教授を講師に迎え、開催しました。舞鶴引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界記憶遺産(世界の記憶)への登録を題材にして、歴史の継承に果たす歴史博物館の役割を舞鶴引揚記念館を事例として考えました。



## 大正大学 連携講座

### 大正大学フィールドワーク実習 in 三鷹市

2021年度に引き続き、大正大学(公共政策学科)の学生が、「三鷹ネットワーク大学」を拠点にフィールドワークを行いました。三鷹市と関係団体の職員から政策や地域の取組などを学ぶとともに、実際に三鷹のまちを歩き、地域住民にインタビューを行いながら地域課題への当事者意識を培い、その解決策を考える思考力を身に付けました。

## 国立天文台 企画講座

### “アストロノミー・パブ”

国立天文台の企画によるアストロノミー・パブは、市民と専門家との間の相互コミュニケーションを目的とした、サイエンス・カフェの天文版です。2022年度は全11回とも教室とオンラインのハイブリッドで開催しました。今年度で19年目を迎える長寿講座です。

## 三鷹の森ジブリ美術館 協力

### “アニメーション文化講座”第9回 「アニメーター大塚康生の仕事」

コロナ禍の影響で2年連続中止となった講座が、3年ぶりの開催となりました。今回の講座では、富沢信雄氏、友永和秀氏、竹内孝次氏による対談、また、叶精二氏をお迎えし、大塚康生氏(1931年~2021年)の今日の日本のアニメーションに見る影響を読み解きました。

## トヨタモビリティ東京株式会社 協力

### 燃料電池を学ぼう—水素のミライパワー

トヨタモビリティ東京株式会社の協力を得て、小学校高学年向けに開催しました。実験キットを使いながら燃料電池の仕組みを学び、環境問題について考えました。参加者は、水素ラジコンカーを使って燃料電池を体験しました。

## みたか都市観光協会 寄付講座

### “三鷹「通」養成講座”

### 日本無線株式会社史料展示室見学会—100年の歴史がつまっている展示室をのぞいてみよう

1915年に創業した日本無線株式会社。1938年に三鷹の地に工場を建設し、以来「日本無線といえば三鷹」と呼ばれるようになりました。本講座では日本無線の歴史と現状について講義を行ったのち、三鷹事務所にある史料展示室で時代をリードしてきた貴重な製品群を見学しました。

## 2022・2023年度 三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」

まちづくり研究員事業は、公募により市民等を研究員に委嘱し、調査研究や論文作成を支援することによって、三鷹市のまちづくりの議論と実践をより豊かにしていくことを目指しています。

3年目となる2022年度には17件、合計20人の方にまちづくり研究員を委嘱しました。3月には研究の成果として7篇の論文が提出されました。研究テーマは、生涯学習や公文書の利活用、自治体DX、リスクコミュニケーションなど今年度も多岐にわたりました。これらの論文を収めた論文集第3号は秋ごろ発行予定です。

2023年度のまちづくり研究員にも多数のご応募をいただきました。引き続き研究員とともに、三鷹市のまちづくりのために地域の課題解決や価値創造に挑んでいきます。



## ●2022年度「民学産公」協働研究事業

(1) 一般社団法人協同総合研究所	持続可能な活力ある三鷹づくりの居場所・就労の場を「まちづくり講座」「仕事おこし講座」を通じてつくる—労働者協同組合法施行を目前に、協同労働を軸にして—
(2) 一般社団法人ゼロはら	デジタル技術と地域連携によるいじめの早期発見の仕組みづくりの研究
(3) 東京学芸大学 お天気ラボ	ドローン等による映像を使った三鷹の天気・自然・防災に関する情報発信を通じたまちづくり
(4) SocioFuture 株式会社	高齢者の行動変容に基づく新たな健康施策の可能性について—生活習慣に健康づくりを定着させる方策の検証—
(5) 株式会社ヌールエ デザイン総合研究所	国際交流版『Animal SDGs』対話の場づくり。多言語通訳ツールを活用した双方向コミュニケーションモデルの研究
(6) 中嶋 厚樹 (まちづくり研究員)	地域共生社会における鑑賞教育と美術館の公共性—八戸市美術館の事例を通じて—
(7) 吉田 渉 (まちづくり研究員)	地域課題に対する支援拠点としての公共図書館についての実践的研究
(8) 倉方 慶明 (まちづくり研究員)	地域の公文書を活用した中学校社会科公民教材キット開発のための実践的研究—三鷹市の公文書を利用した事例研究—
(9) 電気通信大学	三鷹市立図書館スマート都市農業プロジェクト